

幼童手ひき草二編 下

物類

幼童手引草二編卷之下

散攪 第三葉
 阿 第
 仁油及
 肝油及



子 第五葉
 油 第六葉

鮪比目魚鰹鯖及比鱈 第八葉
 白魚 第九葉
 アイシングラス及ビスタルゼオ 第十葉
 鯨精及ビヤムス 第十一葉
 「デート」 第十三葉
 胡瓜常瓜及比西瓜 第十四葉

手引草
 二編
 卷下

幼童手引草二編卷之下
 一頁七日文部省

物類圖書類

類教育
 屬訓蒙
 冊六
 函五
 四

第一〇四

芒果及び皮裂 第十五葉 蕃椒 第十六葉

大蒜 第十七葉

加拿達葱及び「シャロット」第十九葉 醬油 同葉

「クツチャップ」マスル「ム」及び「モレル」第二十葉

「ササフラス」及び食塩 第二十一葉

硝石 第二十四葉 火藥 第二十五葉 硫黃 第二十七葉

強水 第二十七葉

茄艸及び「エーフル」第二十九葉

墨汁 没食子 綠芥 及び紅墨汁 第三十葉

幼童手引草ニ編卷之下

沼津 杉田揆玄端 譯

問 加々阿實といは甚麼様のもなりや

答 最熱の地方に在る棕樹ココナツの一種小生ば

る木質乃實小して織維質の皮を被り内は白

と硬核を含めり

問 其樹ハ最養に―了具要用あるものあら

すや

答 然り、其高四十尺より六十尺ふ至りて樹巔
の外ふハ葉あるとふく、其葉各長十四尺許ふ
して無数の羽毛の如く見ゆるなり、

問 右様の樹ふ如何して實を結べりや、

答 其實ハ樹巔より許多の攢簇をふして下に
垂れさがるあり、

問 其ハ食物、乳汁、油、衣服及び拵塙とあるもの
を産せざるや、

答 然り、實ハ榛子ハズナに似て形甚だ大きく、之を搾
れハ扁桃の如き油を得、又新鮮なる肉ハ大

量の乳汁を含めり、

問 衣服、帆布及び索ハ何ノ部を以て造れりや、

答 實を掩へる線質スチの物より之を造れり、而して
其樹幹ハ小艇に造るべし、是を以て其樹の
各部皆利用をなせり、

問 ケーブルとハ何物なりや、

答 佛國の南部并ハ羅馬、セイロン、及び「フロレ
ンス」の垣塙ハ野生する矮小蟠屈灌木の花乃
未だ開かざるものあり、

問 其灌木ハ何地ふて多く栽培せりや、

答 「マルセイユル」トウロンの間の地、并な「トウロン」及び馬玉ウマタマル加カふり、

問 「ケール」樹ハ何頃ナニトキより花候ハナウケとあれりや、

答 婦女子等其荅コタヘを採收サイシュするハ第五月ゴゴトシより凍フシ

返マゼと始ハジメむる第十一月ジュウイチグヒまで全く續ツづけり、

問 其荅コタヘハ如何ナニトシふ之コトを所置ソコニせりや、

答 日々採收サイシュしたるものを鋒ササの中ナカに入れ其コトを

「」常に溼潤シツジュンありしめんシが為ナリふ晴ハレ及び少量シヨウリヤウ

乃ナリ塩シホを加カふ、

問 其コトハ何ナニトシの為ナリふ用ヨウあるや、

答 煮シたる羊肉ニヤウニクの羹汁ケイジツハ良ヨクなるを以モツテ大量ダイリヤウハ

輸出シュツブツす、又時マタトキと「」ハ藥品ヤクヒンハ用ヨウふ、

問 「オライ」概ハ何地ナニノチより得トクるや、

答 以大利ダイリ是コト班牙パンヤ及び佛國フツクの南部ナンブより得トクる也、

問 其コトハ生鮮ナマシケンハ食シふをトク得トクるや、

答 否イナ、其コトハ塩シホ及び水ミヅハ漬ヅクくるあり、

問 其コトハ養生ヤウセイに宜ヨクしきものありや、

答 油アブを多く含フめるを以モツテ健全ケンゼンなる人の為ナリハ

宜ヨクしき物モノなり、

問 其油アブハ何ナニトシと名ナづくるや

答 甘油「グリセリン」又「オライフ油」と名く、

問 其ハ何ハ用ハるヤ、

答 「セレット「セレット」物「物」及ビ其他「其他」のハ多ク用ム、

問 何地「何地」の民「民」始メ、其油「其油」を大量「大量」に輸出「輸出」セリヤ、

答 「トスカン「トスカン」」の民「民」あり、是「是」を以テ又「又」「フロレンス

油「油」の名「名」を得タリ、然レ共「共」其最「其最」純「純」粹「粹」なるハ佛蘭西「佛蘭西」の「アイキス邊「アイキス邊」より出ルと云ハリ、

問 何地「何地」の民「民」ハ足「足」を洗ムを以テ禮典「禮典」とス、又

饗應「饗應」にシテ頭髪「頭髪」に油「油」を塗ルを例「例」とス、

答 「チウ「チウ」」の民「民」あり、此民「此民」ハ其油「其油」を有毒「有毒」なる寒血

鱗「鱗」々に咬「咬」まれタリ、創「創」ハ亦「亦」藥「藥」ありト思ハリ、

問 羅馬「羅馬」に於テ沸油「沸油」の鍋「鍋」中「中」に投「投」げル、

ものハ誰「誰」ぞヤ、

答 「エハンゲリス「エハンゲリス」」の宗名「名」乃「乃」「セント・チン「セント・チン」」と云ハ人

「ドミチーン帝「ドミチーン帝」」の命令「命令」ふテ沸油「沸油」の中「中」に投「投」げテ

海「海」れタリ、然「然」レ共「共」彼「彼」ハ殺「殺」されタリ、又「又」傷害「傷害」も

受「受」くるト考「考」へリ、

問 彼「彼」ハ其後「其後」何地「何地」に放逐「放逐」せられレヤ、

答 「パトモス島「パトモス島」」に放逐「放逐」されテ、其地「其地」に於テ神識「神識」エ

記述「記述」セリ、

問 「パトモス島」ハ何地ありや、

答 多島海中の一島あり、「セントジョン」ハ小亞細

亞の「エヘン」に於て死せり、

問 「オライフ」樹ハ何の比喩を表せるや、

答 太平を表せるなり、

問 其ハ醫藥ニ用ゐるにふとや、

答 然り、蝮蛇咬傷の藥ありと云へり、

問 其専ら用ゐる所の油ハ二三種の差等ハあ

らざるや、

答 有り、

問 通常の油即ち涙油「トレン」ハ如何なるものか
りや、

答 鯨脂より搾出せる油あり、

問 其脂ハ何と名くるや、

答 「ブラッブル」と名く、此物ハ鯨の皮下十寸乃至

十二寸の深に在り、

問 涙油ハ何の為に用ゐるや、

答 燈に焚き又毛を清浄し及以其他の細工

をふしむ甚だ多く用ふ、

問 油に尚他乃種類ありや、

本草綱目 卷之六 至正書局

答 然り、蕪菁の子仁を搾りて油を得べし、
問 其油ハ又何と名くるや、

答 「コルザオイル」と名く、而して近時之を一般
小燈油として用ゐたり、

問 蕪菁子とは甚麼様のものありや、
答 沃地ハ産する菜の一種の子仁にして細小

ふるを以て平原に大なる鋪物を敷き其上ハ
て之を打つあり、

問 油を搾出したる後ハ發れるものを何と名
くるや、

答 油餅オイルケーキと名く此物ハ専ら牛を肥やそ
に用ふ、

問 蕪菁子ハ何地ハ産するや、
答 英國乃諸部ハ産せり、

問 牛足油ホフツとは甚麼様の物ありや、
答 牛の足より之を取る、此物軟革を製するに

多く用ゐるあり、

問 亞麻仁油フラインオイルとは甚麼様のものありや、
答 麻フラックスの子仁を搾りて取たる油にして藥

子仁を搾りて取たる油にして藥

品及び其他の工作用

問 「カゼット油」カゼット油は、其の甚く甚く摩滅のものありや、

答 東印土の産する灌木の葉より出る上好緑

色の油にして其地にてハ諸般の疾病に用

し、又天造の物体を貯蓄するに用ふ、

問 其ハ専ら何地にて製するや、

答 馬路古諸島中の一島ボウロにて製し、其

地より運輸し来れ共其價の貴きが為に正真

の品鮮しとぞ、

問 其香氣ハ甚だ強きものあらや、

答 然り、昆虫を殺し能あるを以て顯著なりと

ひ、

問 石油「ペトル」オといハ如何なるものありや、

答 五大洲中の諸部に出る礦物油あり、北亞墨

利加ふ於てハ千八百六十年我萬年延に其油の

出る泉、許多を見出して、今に至る際限な

く之を採收せり、

問 其油ハ甚だ燃へ易しや、

答 然り、温度甚しからざるも能く燃ゆるなり、

問 肝油「レバード」油といハ如何なるものなりや、

答 鱈^{「ヒヨ」}の肝臓を日輝^{「ヒヨ」}の脂^{「ヒヨ」}―其腐敗に乗^{「ヒヨ」}―
―搾出せる油あり、

問 今之を何に多く用ゐるや、

答 羸瘦せる人及び衰弱―たる病人を強壯^{「ヒヨ」}―
せるに用ふ、

問 其症に用ゐるに甚だ良効あらざるや、

答 有り、其の恐くハ英國にて数年用ゐ来り―
最^{「ヒヨ」}有効の藥劑あり、

問 魚類中最^{「ヒヨ」}貴重か―且多きものハ何あり
や教示を乞ふ、

答 「サルモン」鱈^{「ヒヨ」}タルボ^{「ヒヨ」}―日^{「ヒヨ」}コ^{「ヒヨ」}ド^{「ヒヨ」}鱈^{「ヒヨ」}ア^{「ヒヨ」}ケ^{「ヒヨ」}レ^{「ヒヨ」}ル^{「ヒヨ」}
鱈^{「ヒヨ」}及び「ベルリング」鱈^{「ヒヨ」}あり、

問 「サルモン」ハ何地より漁るを得るや、

答 時に「テイ」の河及び海峡又蘇格蘭^{「ヒヨ」}の諸河及

び海峡より之を漁るべし、又阿爾蘭^{「ヒヨ」}の「ライム

リ」及び「コルク」乃近傍并に英倫^{「ヒヨ」}の諸河より

亦之あり、

問 「タルボ」鱈^{「ヒヨ」}ハ甚だ廉價の魚なりや、

答 鱈^{「ヒヨ」}を大魚あり「コルク」シヤ^{「ヒヨ」}及び荷蘭^{「ヒヨ」}の海
岸より多く漁るべし

問 「コッドヒ」は幾ハ何地ハ漁られルヤ

答 多く北亞墨利加の新ホウンランドの海岸

にて漁るべし此魚漁れる時ハ一々乾して

塩蔵し桶詰めて英國及び歐羅巴の南地ハ

多しく送るあり

問 然れ共第十二月及び第一二月ハ其魚の

生鮮あるを喫する者ありや

答 然り其ハ英國と荷蘭の間ある「フグ」ルバ

クハ多く漁れるあり

問 「ソール」とハ如何なる魚なりや

答 扁平なる小魚なり英國海濱の諸部ハ漁

るをを得べし而して第六月頃喫するに最宜

問 「マツケレ」ハ如何

答 英國海濱の各部に於て漁るべき小魚ナリ

て春及び夏の初めハ多し

問 其魚ハ一異の性ハあらざるや

答 有り此魚ハ他の諸魚より速く腐敗する

故ハ日曜日の之を賣捌くべし

問 「ヘルリン」ハ諸魚中最廉價なるや

答 然り、此魚ハ甚しく多く、北海の諸部ハハ測るべしと云ふ程ハ多く居れり、

問 「ノルホルグ」の「ヤルモウス」ハ「ヘルリング」魚乃為小有名なりと云ふや、

答 然り、其大漁の時節ハ約、第八月の末ハ始まりて此小魚の七十噸以上乃秤量ハ一夜の中ハ魚を多く得たり、

問 達達塞河ハ於「緑威」と「ウツル井」チとの間ハ魚を小魚ハ何と云へるや、

答 「ホワイトマート」と云至小の白魚ハ一と云

た美味ありと云

問 「アイシング」云ふは、何ぞの魚ハ何と名づくや、
答 魚の「ソウ」下「の」氣胞及以氣胞「エ」ハ「ア」を以て製したる膠汁「ゴ」あり、

問 之を含む多き魚ハ何と名づくや、
答 窩瓦河ハ産する「ス」ルセオ「ン」魚ハあり、魯西亞人ハ之を製するに以て久しく秘せり、

問 其ハ何の爲ハ要用と云ふや、
答 酒造家及以其他の家ハ於て泡醸する液を精製するに用ぬ、又藥劑として又割烹家ハ於

て美^リル^ルを造るに用ふ、

問 裏海^{カシピア}に於ては年々^{スタルゼオンの}大量を漁るゝかきや、

答 然り、其數三十萬より四十萬に至り、而して其魚より上好の^{カヒアル}及び強を魚鱈を採收せり、

問 ^{カヒアル}は甚麼採のものなりや、

答 ^{スタルゼオンの}鱈を以て製せる食料にして魯西亞人多く之を食せり、

問 倫敦^{ロンドン}近傍にて漁りたる^{スタルゼオンの}何

物かふせりや、

答 其ハ皆^{ロルトマダギール}郡に征^キて其官より國君に獻むるあり、

問 其例典ハ如何ありや、

答 ^{スタルゼオンの}肉ハ^{セヘリ}ース帝の時代に於てハ甚だ高價ふるに因り之を食盤上ハ致さふハ其臣頭ハ冠を戴き音樂を奏して之を進めたり、其肉の味ハ横肉より區別するを甚だ難し、

問 亞私木^{アサキ}臘罕^{ラハム}の俗ハ^{スタルゼオンの}戸外に

て日輝に乾らさばや、

答 然り、其魚其に因り市中に蟠踞し、群集に

るが故に氣中に生活をす蟠踞しと見えたり、

問 裏海とハ何地に之ありや、

答 其ハ亞細亞中の大湖あり、而して其湖中に

ハ「スタルゼ、オシ」の外鱈及び鱈ありて其種上

好あり、

問 亞細太臘罕とハ何地にありや、

答 裏海の濱にあり、市鎮あり、其地ハ雨落る

と稀ありと雖も、出水をる窟、毛河の畔にあり、

而して其河水退く時ハ一月ハ満ちたりて草

米茂生をるあり、

問 「スベルマセ、チ」ハ何の魚とハ怎麼様のものなりや、

答 其ハ白色の脂質物をり、鯨の頭蓋中の夥し

く在るものなりて腦髓とハ異あり、

問 其ハ鯨の生活中ハ流動して在らざるや、

答 然り、併しありて死をれば白とある疑塊と

をるあり、

問 「スベルマセ、チ」ハ何の鯨と見えたりや、

答 否、別種の鯨とあり、其鯨ハ「スベルム、ホエー

ルミ名け其背ハ結節あるを以テ常種ト區別
スベシ、

問 「スベルマセチ」ハ何の用ニ充テリヤ、

答 藥劑トシテ咳嗽及び内臓の損傷ニ多く用

ル又燭に造リ用ルルアリ、

問 「ヤム」ストハ甚麼株のモノアリヤ、

答 亞墨利加人其生蕃「子」「ス」「グ」ル以テ養ふカ為ニ用

ルル一種の草根アリ、株ニシテ葉ニシテ

問 其形單根ニアラルヤ、

答 然リ、其形甚大にして人脚ニ齊しく見ゆる

アリ、

問 其ハ食料トシテモハ或時ハ煮又或時ハ粉末

ト磨クニシテモヤ、

答 有リ、

問 「デ」ト「ト」トハ甚麼株のモノアリヤ、

答 其形大なる橡栗の如シ、而して阿非利加人

及び埃及人多く之を食ム、

問 「デ」ト即葉樹ハ多く何地ニ培養スルモノ

アリヤ、

答 地中海の阿非利加海濱及び亞刺伯并シテ波

新あり、
「デール」ハ其地方の住民生産の尤物にあ
るや、

問 「デール」ハ其地方の住民生産の尤物にあ
るや、

答 然り、

問 其樹の葉ハ甚だ大なりや、

答 然り、長八九尺あり、バルムと名けて以大利

小持来り、バルムサンデール樹日ハ於テ大祭
を行ふ小用也、

問 「バルムサンデール」ハ如何なる日ありや、

答 衆人棕樹を切倒して「オウル・ロール」救世の

道路に之を敷布するを道徳を祭日山なり、

即、其墓本前の日曜日を祭日なり、

問 「キンカムバルム」ハ如何なる物なりや、

答 清涼性の薬實あり、未だ熟せざる小葉一常

小暗油胡椒及び塩を加へて喫し又時々
ハ蒸し之を喫す、

問 其ハ何地より来れりや、

答 「レハン」より来れり、其地方ハ玻璃窓

下の熱床中ハ長育せり

問 「ゲルキ」ハ甚だ摩揉の事ありや、

三ノ章
二ノ節
七ノ節

本草綱目 卷之十 果部 瓜類 西瓜

答 甚だ糖と胡瓜を醋及び香酢に漬たるものあり、

問 「コムモンメル」に糖とハ怎麼採のものありや、

答 胡瓜の種類あり、此果熱地よりハ十分ハ長大と云れ共英國よりハ玻璃窓下の長育せり、

問 「チータルメル」に糖とハ如何なるものありや、

答 他種の瓜にして其美味あると清涼あるとの兩件の高に熱地より於てハ甚だ之を稱羨せ

り、此物口中に於て溶餅し、又加々阿寶の如く其液を一孔より湧出し得又飲むを得べし、

問 特ふ何地より之を稱羨せりや、

答 埃及唐山及び東印土あり、其内ハ総て色紅いと云、

問 「マン」果といハ甚麼様のものありや、

答 英國より見る所ハ東印土の未熟なる樹果を醋に漬たるものあり、

問 其ハ印土より甚しく稱羨する果ありや、

答 然り、熟する時ハ鶯卵の大、至りて其香氣

病あるものも回復せんと恐ハるゝ程小爽快
あり、

問 「バナナ」一名「ピンガ」皮とハ如何なるもの
ありや、

答 東印土及び其他の熱地ハ培養するも多
好樹の實あり、幹軟柔ゆゝて高十五尺より二
十尺に至り、頂上に繁葉攢簇せり、

問 其葉ハ甚だ大なりや、

答 然り、其長ハ八尺ハ一丈幅二尺餘のもの屢
あり、實ハ形、胡瓜ハ似て大四十斤以上の攢簇を

問 ありて産せり、

答 其實ハ美味ありや、

問 然り、其熟せる時ハ甚だ甘味の肉を食
を以て屢、東印土の沙漠に之を輸入し、

問 其實の採收ハ通例其熟する前ハあらばや、
答 然り、其皮の剥けたる後暫時之を文火ハ焙

り刮ぎて蒸餅の如く食ふ、蒸餅の代ハ至て
好ま物品あり、

問 其ハ又煮るとふや、
答 然り、焙りて粉と布類に製し、又種々の仕方

ふして用ゐるあり、

問 其樹ハ何人ハ無上に貴重せるや、

答 西印土諸島の黑人及び南亞墨利加の野人

あり、此人民ハ其實を以て其生命を保護せられ

ハあり、

問 「カフシキム」カフシキムハ怎麼様のものありや、

答 南亞墨利加及び印土に産する草ハして其

子房紅若クハ黄色にして光澤あり、其内ハ小

なる子仁を移しく含むを以て知れ渡り、

問 其ハ何の爲に要用とせるや、

答 熱地に於てハ動物牛、羊、豚、鶏、魚、肉、草、植物、菜、根、葱、

り製する食料ハ皆之を多く加へ食するあり、

問 「カエン子、ペバ」カエン子、ペバハ如何なる物を云ふや、

答 其ハ「カフシキム」より異なりたる種類の実

を以て製せり、

問 其ハ如何なる作用を奏くるや、

答 熱する時ハ日光に乾く一晝を以て其量の塩

を混し以て之を用に供するたハ罎中ハ密封

し貯ふ、

問 其ハ大に利用をなせりや、

本草綱目 卷之四 菜部 大蒜

答 其ハ食用ハカト、又醫家ハ在テハ痛風及び中風症ハ於テ器械ノ疲勞ヲ有スルモノハ運營ヲ催進スル為ニ甚ク用フ、

問 大蒜リガルトハ何物ナリヤ、

答 臭氣竄透シテ甚タ厚味ヲ有ス球根アリ、佛是及ビ葡國ポルトガルノ賤民多ク之ヲ食フ、

問 之ヲ多ク食フ他ノ民ハ何ト云ヘリヤ、

答 猶太人ヂウタアリ、又藥劑ニ水腫喘息熱病及び諸神經病ハ多ク之ヲ用フ、

問 其ハ耳聾ヲ療治スルニ用ルルヲ驗セザリ

一ヤ、

答 然リ、大蒜ノ球ヲ芥子ノ中ニ混入シ之ヲ耳中ニ入れた療治ス、

問 大蒜ノ液ハ強ク粘着ヲ有ス云ハレヤ、

答 然リ、最ク強ク粘着シ、故ニ玻璃或ハ陶器ノ破碎セルヲ附着スルニ用フベシ、

問 其草ハ何地ニ野生シルヤ、

答 西カ里島シカリニ在リ、

問 其草リクハ甚麼様ノモノアリヤ、

答 大蒜ノ種類ノ球根ニテ其地ニ生ズル肉湯

肉羹汁等に多く用ふ、

問 其ハ素何地に産けりものありや、

答 瑞西國あり、

問 「リーク」を帯てて恭敬を表するハ何地の民ありや、

答 華嚴の民あり、此民ハ其祖師「セント・ダヒド」

の命日ある第三月一日ハこれを携帶せり、

問 何に因て此の如き妙ある例ハ始まれりや、

答 華嚴の戦争の時其土人徽章あるに因り「リイ」を培栽したる圃ハ行きて之を採り、其帽

ハ狹く及び帖しければ之ハ由り勝利を得し

より起りたるあり、

問 加拿達葱「カチイオニオン」トハ怎麼様のものありや、

答 莖頭に葱を産する一種の樹あり、

問 「ジャロット」トハ如何

答 大蒜の種類あり、佛人の多く之を料理に用

ふ、

問 醬油「シヨ」トハ怎麼様のものありや、

答 黒色の液にして唐山の薑より造りたるもの

のあり、

問 醬油ハ「ビートル」ビートル及ビ「コックローチ」コックローチの昆魚を

以て造ると云へるハ舟士の戯言あらばや、

答 然り、其ハ色及ビ形状「ビートル」の子小似たりと思ふより起れり、

問 其液ハ何地カて製造せりや、

答 特ニ唐山及ビ日本カ於て造れり、而して其

日本に産したるもの多分上品なり、

問 「アンチョーヒイ」とハ甚麼様のものありや、

答 「ヘルリシグ」ヘルリシグ魚の種類カる小魚を人の通知

せる液即ち塩汁に浸したるものあり、

問 其魚ハ何地にて漁れりや、

答 地中海あり、然れ共以大利の「リホル」リホルと遊

々小島の濱カ於て多く漁れり、

問 「ケツチ」ケツチアとハ甚麼様のものありや、

答 通常の「マスルム」マスルムを以て製したる液にて

て人の通知せしものあり、

問 「マスルム」とハ如何なるものありや、

答 鋤草カる數年土を動かし、草を動かする圃とて地及び
草野カ生る菌草を云、

問 「モレル」とハ怎麼様のものなりや、
答 樹若くハ檜ヒノ離リに生ハハ齒草シウソウの一種ハナリ肉

湯及ハハ藥汁ノの氣味ヲを濃厚ニにするハ用ス

問 其ハ如何ニ貯ルふル處ヲ

答 重シ綿ヲハ編ミて乾シて貯ム

問 「サル」プロトハ怎麼様ノものなりや、

答 倫敦ロンドンの市街ヲ於テ早朝ノ賣ル人ハ賣ル者ト養シ

料トさスべき飲液ナリ

問 其ハ何を以テ製セりや、

答 「ササフラス」の浸汁ハ乳汁ヲを混和シたる也

のあり、此飲液ハ甚ニた榮養ヲの効ありトハハ也、

問 此飲液を稱ス義ヲをシるハ誰ノぞや、

答 土耳トルコ其人ハあり、今我輩ハの用スる所ノものハ

其地ニ於テ製シて「レハント」ト持渡スれる也

問 「ササフラ」トハ怎麼様ノものなりや、

答 北亞墨利加ノ産スる利兒樹ノ種類ナリ

木根及ハ皮ヲ用シて藥品とシて用スる也

問 其ハ香氣ニきクくニてハ何ノ嫌ムものナリや

答 然り、是故ニ亞墨利加ニ於テハ此木ハ不レ求ム

を造り、又衣箱中に此木片を入れ、以て其蟲蝕
を防ぐあり、

問 常用の食塩ハ如何にして製せりや、

答 海水及び塩泉を煮つめて製し、

問 如何にして之をふりや、

答 海水を大ふり釜鍋の中に汲み入れ火を以
て其水分を蒸散せしむれば塩其鍋底に殘る
あり、

問 塩ハ何の用をふすや、

答 料理不用の食物を貯蔵するに用ゐ、耕作に

用ゐ、其他百般の事件に用ふ、而して曹達及び
其外有用の産物も此塩より製するあり、

問 塩ハ他の種類ありや、

答 然り、更に上好のものあり、光明塩と名く、山

坑より掘出せり、

問 山坑ハ何地にありや、

答 諸家より然り、其最著名あるハ波蘭の「カ

ラカウ」に近き「井」リッカ」と云霧に在り、

問 其坑の周辺ハ甚だ顯著なる事件ありや、

るや、

答 有り、其蒙に居民あり、石塩を截り、家屋小寺及び街道を造り、

問 其ハ甚しく羨麗ありや

答 美麗あり、燭を照し時ハ金剛石の如く燦爛たり、

問 其坑ハ誰の所領ハ属ハるや

答 埃地利帝乃所領に属せり而して之を始りたるハ千二百五十一年我建長三年以来の支ふる數千人の産業とあり、甚だ壯觀とあり、

問 英國中ハ塩坑ハあるや

答 有り、ノース井チ及び「ナント井チ」又「シェール」の他地に在り、其地の塩坑ハ甚だ深く且廣く、

問 又塩山ハありや

答 有り、是西班牙の「バルセロ」より五十里ある「カルド」に近き蒙ハ高五百尺のものあり、又「印土斯坦」の一州「ラオ」も又「秘魯」もこれあり、

問 君又塩泉より食塩を採收すべしと云給ひ

一、英國の塩泉ハ之ある也、

答 有り、其地あるものハ、ウーストルシヤルの「ド

ロイト井」に在りて、其數四百、

問 何地ハ食塩を甚だ稱羨スルヤ、

答 亞墨心域ハ稱羨セリ、其地ハ一人毎ハ

食塩の小片を一個の囊に入れ、之を帯に掛け

て持ち歩くあり、

問 何の爲に右様ある奇妙の風習をふせりヤ、

答 其地の氣候熱するが爲ハ口灼くヤ如くあ

りて燥くが故に、朋友二人相會する時ハ、塩の

一片を出して互に恭敬及び懇親を表するが
爲に越むる爲と相進むるあり、

問 右様ハ、大ハ驕奢の沙汰ナシヤ、

答 然り、マンゴパーク名に曰く、亞非利加の内

地に於て、塩を食物と共ハ喫する者と云ハバ

言者と云ふに當れりと、

問 昼食の時、食盤の中央ハ大ハ塩鉢を置く

ことハ英國ハ於て中古の風習に在らざりヤ、

答 然り、而して貴人ハ塩の上坐ハ在り、奴隸及

び賤客ハ塩の下坐に居るをヤセリ、

問 親族と奴隸と同一の食盤にして粉末を食せ
しや、

答 其頃ふハ此の如くあるハ風俗をりし、

問 港塩ハルソトハ甚麼採のものありや、

答 海水を蒸散するに日輝の熱のこを用ひて
採たる塩を云、

問 硝石ピソトルトハ如何あるものありや、

答 其ハ異種の塩にして印土・亞非利加及び是
斑牙の某部に於てハ地面に純粹ハ産ハ、而
て其地ふてハ其時季に於て一週日中に二三

回之を刷ぎ採るあり、

問 併しふやう其ハ人工ふても造られずや、

答 然り、動植の汚物を腐敗せしめて之を得る
あり、

問 専ら何地より之を産出せりや、

答 東印土あり、孟加拉の總督より毎年英國に
輸ハ所の量大約二千五百萬斤あり、

問 硝石ハ又他名ありや、

答 ナイトルの名を以て知らるゝあり、

問 何の用に甚だ緊要ありとするや、

答 火藥と名けたる損壞を起し物品の尤オモある成分として緊要あり、

問 火藥と名の甚麼様のもりありや、

答 硝石・硫黄及び木炭を混和せるものあり、然れ共硝石其最大分れ居り、

問 火藥の如何して見出たるものありや、

答 「コロニー」名地の一僧「スワルツ」と云者化學の試験をせし時上云へる三物を細末して混合しければ、爆發せる性を生じんと云へて發明せり、

問 但し其大なる破壊の功力を發明せし誰ぞや、

答 其ハ「エドワルド第一」の殆世中に在り、英國の一學僧「ローゼン・ベーク」あり、此僧曾て火藥を説きて兵隊を破るの猛器ありと云へり、

問 之を砲台に用ゐ始りし何の頃ありや、

答 「クレヒ」名地に於て用ゐ、又其後「カライス」名地の攻圍に於て之を用ゐたり、

問 唐山の其時代より遠く前に於て火藥

を知らり云ハシヤ、

答 然り、

問 「ローゼル・ベークン」ハ其他の好ミ發明の
らざりヤ、

答 他ハ讀書鏡「リグレン」及び有益なる測器を
創見セリ、

問 他ハ又千里鏡「テレパス」及び顯微鏡「ミクロス
クプ」を見出さざりヤ、

答 他ハ玻璃鏡を重なる物体を大く視るべき
変を工夫したりと見ゆれ共、當りて實用を以

て千里鏡を造出せしハ以大利人「ガリレオ」か
りと見へたり、

問 「ペーグ」ハ又始めの地圖を造出せりと云
ハシヤ、

答 然り、其ハ韃靼國の一地方に或る旅人よ
り聞たり、説話を以て之を造れり、

問 他ハ其無知の世に在りて魔術家と云はれ
ヤ、

答 然り、他ハ獄屋の下に数年生存し、たれ共
死に高年に至り「オキスホルド」に死す至れ

問 常品の硫黄即チアリムストトトモハ甚麽様
乃ものありや、

答 黄色の乾をたるとのふー工之を燃せハ室
息をす烟を發するも乃あり、

問 我輩何の處より之を得るや、
答 諸處の地より掘出ひあり、特に西々里以大
利瑞西及び南亞墨利加の地より掘出ひべし、

問 強水ルアハルアとハ甚麽様のものありや、
答 硝石と灰石とを混ぜ合せ玻璃の装置を以

て蒸餾したるものあり、
問 強水ハ何の爲に多く用ひるや、
答 黄金及び白金の外諸金皆之に因り溶解し
べし、

問 漆工ハ如何して之を多く用ひるや、
答 他ハ之を錫を溶り以て用ひ、又之を齒草と
合して甚だ蒸ふる程紅色を作るも用ふ、

問 此大秘法ハ偶然英國ハ發明せしに非ん
や、
答 然り、一茶館の娘子或る紐子を染めんと欲

三十一 二編 共 支那の歴史

一、漆行にエ作せし情人、紅漆の法を問ひたり、

問 其娘子、其法を以て何事をあせりや、

答 他ハ「ポルト」名壺の中に紐を入れ以て其

中、了之を煮るより他、支をあせりし其

紐、最羨麗ある色となりて現りたり、

問 其情人ハ之を見て驚きざりしや、

答 他ハ「甚しく才智有る者、あんな錫壺の此の

如き支を起せるを考へて是より一秘事を護

明したり、

問 苗草ハハハ何ぞの態様のものありや、

答 荷蘭、佛蘭西及び以大利に於て其根の為に

多く培養する成長の遅き草なりて其根ハ漆

工及び綿布の形付師ハ多く用ゐるなり、

問 其物ハ如何なる色を漆に得るや、

答 羨ある紅色あり、而して又他の諸色の第一

色と云ふあり、

問 他の外國より亦之を産するや、

答 南亞墨利加及び「スミ」の道辺に野生し、

又「シ」アラス島に産するもの、甚だ羨色と漆

出はあり、

問 之と好める動物ハ何物ありや、

答 牛あり、其ハ其義黄色の酪と造れり、

問 エーフルとハ如何なるものなりや、

答 其ハ麵粉・魚鱈及び少量の酵を以て製はる

ものあり、

問 其ハ更に如何あせりや、

答 右三味混合したるものに色彩を施して錫

板上に薄く延ばして之を煙上にて乾して切

て「エーフル」とをなすなり、

問 墨汁インクハ何物を以て製するや、

答 没食子・綠礬・阿刺伯膠アラビアガム及び水の和劑あり、

問 没食子とハ甚麼様のものなりや、

答 昆蟲シロアリの葉を蝕むに腫起をなすハ、昆蟲

ハ其腫起を介し瘰癧に卵を産む、

問 没食子ハ何の用なりや、

答 多く漆物に用ゆ、又他の目的に用ふ、

問 綠礬ハ甚麼様のものなりや、

答 一種の礦物塩あり、鐵と酸素の蒸氣より

生ずる硫酸を以て成るなり、

三才集 卷一 至下食...

問 其色ハ甚麼様ありや、

答 正緑色カ、了漆工消皮工及び墨汁匠の多

く請求する事あり、

問 紅墨汁ハ甚麼様の事乃ありや、

答 其ハ没食子等に代つて蘇木の煎汁ハ明若

と樹膠水とを混和し製する事あり、

問 方今の墨汁ハ往時の者より同物あるや、教示

を乞ふ、

答 同く、往時の墨汁の粗惡ある事十七

百年代 我元禄十三年より其乃遺書を見て知

るべし、其ハ殆ど讀むべからず、但英國に於て

書記せるサキリとの書押の、其色群衆に勝

ぐれたり、



三才集 卷一 至下食...

幼童手引草二編卷之下終

幼童手引草

杉田玄端譯述

初編三冊 追々出版 全十六冊

此書ハ西洋にて日々用ひ、飲食衣服手道具家什婦人縫鍼の道具あり
坐敷の飾り置物文房具其他藥品漆物等に至りて其起原何年代
工夫人の姓名并其製作用法効能等按問答し取綴り童蒙より易く認
たる書なきハ幼童の輩一覽して忽ち物識なるハ快得べし故に幼童
を教諭する書方今世に數多のハを雖も此書に優るハ多し好む者

製藥藥式

同

譯述

全三冊 並刺

此書製藥の配合法開始して雜合品に查出法價造藥の檢點方及天然の
性能より以て疾病小用ひて効ある所以服量及禁忌に至りて明細記述したる
書を醫家勿論合藥家及藥舖を産業する者居常缺くハ要典也

東京書林

嶋村屋利助

中外堂梅郎

丸屋善七

山城屋佐齋

致高館藏板成本所

勝倉半兵衛

幼童手ひき草

三篇

上